

「高知県橋梁会平成 21 年度第 1 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 安見和夫

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 21 年度第 1 回研修会が、2009 年 4 月 21 日(火)に、高知市本町にある高知会館の「飛鳥の間」で開催された。13 時 30 分からの研修会では、4 テーマの講演があった。年度初めの行事多忙時期で建設不況の波をもろにかぶっている業界ではあるが、技術向上を目指す 64 名の参加があった。

研修会後に高知県橋梁会の通常総会が開かれ、17 時より「村山保名誉会長の卒寿を祝う会」が開催された。

研修会(13 時～16 時 20 分)



高知県橋梁会理事の岡本圭吾氏による司会



四国地方整備局四国技術事務所総括技術情報管理官の柳瀬晴朗氏から「四国の斜面防災対策」と題し、ご自身の大変貴重な経験と最新の土木工学を交えながら、斜面防災対策の問題や黒部の太陽の映画内容をはさんで、わかりやすく四国の地質や誕生を講演された。(13:40～14:30)



高知県橋梁会会長の右城猛氏による開会の挨拶。平成 20 年度の活動として、3 回の研修会、現場見学会、橋梁模型コンテスト四国大会への協力、「本山さくら」のよさこい祭り地方車に対する協賛などが報告された。

不況を乗り切るには、技術力を付ける以外にないことが指摘された。(13:30～13:40)



高知県土木部道路保全担当チーフの岡崎邦彦氏から「高知県の橋梁のアセットマネジメント」と題し、高知県の橋梁点検方法、調査方法、橋梁長寿命化修繕計画やアセットマネジメントなどを説明された。四万十市の通称「赤橋」は、補修・

補強後に実車実験で検証したことも紹介された。
(14:30 ~ 15:20)



質問される村山保名誉会長



(株) 第一コンサルタンツ社長の右城猛氏から、「村山保先生と私」と題し、卒寿を迎えられた村山先生のこれまでのご活躍や哲学、出会いによる貴重な指導を受けたこと、橋梁会の変遷を記録していたアルバムから紹介された。(15:10 ~ 16:30)



アストン協会技術部会長の安藤尚氏から「表面含侵材を用いたコンクリートの高品質化への挑戦」と題し、コンクリート改質剤CS-21の特性、施工実績、実験による性能確認結果、土木学会表面保護工法による各種抑制効果の確認、NETIS 登録などの説明があった。(15:30 ~ 16:10)



熱心に聴講する 64 名の参加者



活発に質問する受講者



橋梁会副会長の中村和弘氏による閉会の挨拶。体調が悪く居眠りをするかも知れないと思い、最後列の隅の席に座って聞いていたが、皆さんの講演に引き込まれ、一睡もする間がなかったと感想を述べられた。

通常総会(16時30分～17時)

平成20年度の事業報告及び監査報告が満場一致で了承された。次に21年度の事業計画案、高知県橋梁会規約の改定および役員改選の議事がおこなわれ承認された。

役員改選では、中村和弘副会長と山崎喜一郎理事の退任に伴い、吉田幸男理事が新副会長、西川準二理事が新会計理事に就任した。新理事として都市開発コンサルタントの岡林弘憲氏、顧問には第一コンサルタンツの西岡南海男氏が就任した。



司会をされる中村和弘副会長

村山保名誉会長の卒寿を祝う会(17時～19時)
同会館の平安の間に33名の会員と講師が出席し、「村山保名誉会長の卒寿を祝う会」が開催された。

先ず前副会長の中村氏が祝辞を述べられ、続いて祝電披露があり、新会計理事に就任された西川準二氏から花束が贈呈された。



祝賀会会場



事業報告をする右城猛会長



花束を贈呈する西川理事



会計報告をする吉田幸男会計



花束を受け取られた村山名誉会長

出席者全員に、「心小欲而志欲大」と書かれた色紙を進呈された。これは先生が高知工業高校の教諭をされていた三十七歳の折りに、紹介状も持たずに大磯の吉田邸を訪問し、元内閣総理大臣吉田茂より目の前で書いてもらったという直筆色紙の複製版。

「無理かなと思っても、当たって砕けると案外成功したことが多かった」と教えてくれた。五十年経った今でも毎日この色紙を見て、「心配りは細かく、志は大きく持つ」ことを心掛けておられるということであった。



謝辞を述べられてから、色紙の由来を説明される名誉会長。手に持っているのは複製版。



吉田茂直筆の色紙(本物)



乾杯の後は大いに盛り上がる



宮崎測量設計コンサルタントの濱田社長による中締め



顧問に就任した西岡南海男氏による乾杯の音頭



二次会はいつもの居酒屋「赤たぬき」